

## 令和4年度 第1回向日市いじめ防止対策推進委員会

- 1 日 時 令和4年8月4日（木）午後1時から同2時まで
- 2 場 所 乙訓総合庁舎3階 第3会議室
- 3 出席者 本間委員長 大学教授  
平 委員 弁護士  
西村委員 医師・・・欠席  
北口委員 臨床心理士  
荒井委員 臨床心理士

### 4 内 容

#### (1) 令和3年度いじめ調査の結果の概要について（資料を基に説明）

##### ①年間のいじめ調査の結果

- ・認知件数 小学校 1142件、中学校 186件、小中合計 1328件
- ・未解消件数 小学校 93件、中学校 17件、小中合計 110件
- ・解消件数 小学校 1049件、中学校 169件、小中合計 1218件

##### ②令和2年度との比較

- ・認知件数 小学校 190件増、中学校 73件増、小中合計 263件増
- ・未解消件数 小学校 34件減、中学校 11件増、小中合計 23件減
- ・解消件数 小学校 224件増、中学校 62件増、小中合計 286件増

##### ③認知件数の経年比較

・コロナの影響による臨時休業が実施された昨年度との比較では、認知件数は増加したが、ここ数年間の調査においてはやや減少している。

##### ④学年別認知件数の傾向

- ・令和3年度も、概ね学年が上がるにつれ、学年順に認知件数は減る傾向があった。

##### ⑤認知されたいじめの態様

・小学校、中学校ともに、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」、「仲間はずれ、集団による無視をされる」、「ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする」が、いじめの態様の中で多くを占めている。

(2) 質 疑

(委員) 令和2年度1年生の認知件数と令和3年度2年生の認知件数を比較した場合、増加しているのは何か原因はあるのか。

(事務局) すべての学校において令和3年度の2年生が落ち着かない状況ではなかった。認知件数の増加は、児童と教員との信頼関係が構築されたものと考えている。

(委員) 令和3年度において未調査者の件数とその状況はどうか。また、重大事態はなかったか。

(事務局) 未調査者について、各校、各調査において2名程度未調査となっている。未調査者の状況は、不登校児童生徒やフリースクール等に通所する児童生徒である。

また、重大事態に係るケースはない。

(委員) コロナ不安での出席停止の扱いはあったのか。

(事務局) 1件把握している。しかし、本年度に入りその児童の状況を詳細に把握していく中で、不登校の要因が多くあることがわかってきており、本年度は出席停止の扱いにするのかについて検討中である。

(委員) いじめの集計の際、一人の加害児童生徒について、その後同じようにいじめを繰り返していないかは把握しているのか。

(事務局) 市教委は、各学校からいじめの調査結果の報告を受ける際、すべてのケースについてその状況を把握しており、いじめを繰り返してしまう状況やその対応についても把握している。

(委員) 学校の先生方には、「いじめ防止対策推進法」などについて学習をすべきではないか。特に新しく先生になられた方には、どこからがいじめで、重大事態とはどのような事態かについて学んでもらいたい。

(委員) 私も同様に考える。管理職は法について学習いただきたい。また、各校がHPにも掲載されている「いじめ防止基本方針」については、その内容を実施していないということがないか、全教職員が確認しておく必要がある。

以上